

「Stanford A 型大動脈解離に対する外科的治療後の、下行大動脈残存解離に対するステントグラフト内挿術に関する研究」のご協力をお願い

奈良県立医科大学では、他の医療施設と共同して、上記研究を実施することになりました。本研究は、奈良県立医科大学 医の倫理審査委員会で審査され、学長の許可を得て実施するものです。

下に本研究の概要を記載しております。研究の内容などについてご質問がありましたら、問い合わせ先までご連絡ください。

研究背景；

大動脈解離は、大動脈内に亀裂が生じ、真腔と偽腔の二つの腔が生じる状態と定義され、突然発症して死に至る可能性のある重篤な疾患です。A 型大動脈解離(上行大動脈に解離が存在する状態)では、緊急の手術が必要です。緊急手術は、上行大動脈を人工血管に置換することで、致命的な合併症となる心タンポナーデや破裂などを防ぎ救命を行います。しかし、緊急手術で救命できても、下行大動脈以遠に解離が残存する症例が存在します。現在、下行大動脈に残存する解離に対して積極的な治療を行うことは一般的ではありませんが、何らかの合併症(破裂や臓器還流障害など)が生じた場合には、ステントグラフト内挿術で治療されることがあります。現段階では、どのような解離形態で、どのような治療をすれば、術後にステントグラフト内挿術が必要であるか、不明です。

研究目的；

A 型大動脈解離に対して手術を行われた患者様のデータを解析し、どのような患者様がステントグラフト内挿術の適応となりやすいのかを検討します。同時に大動脈径の変化を検討し、ステントグラフト内挿術が治療後の大動脈に及ぼす影響を評価することを目的とします。

対象；

当院で 2012 年 1 月から 2017 年 3 月まで、A 型解離に対して手術を受けられた患者様が対象となります。

研究内容；

年齢、CT データ(解離の範囲や様式、術後の大動脈径)、採血結果を、外科手術のみの患者様と、外科手術後にステントグラフト内挿術を施行している患者様とで比較検討します。

研究期間；

倫理審査委員会の承認日から 2020 年 03 月 31 日まで

個人情報の取り扱い；

収集した情報は、名前などの患者様を特定できる個人情報を除いて匿名化致しますので、個人を特定できるような情報が、外に漏れる可能性はありません。また、研究結果は学会や学術雑誌などで発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

患者様へのご負担；

本研究は、過去に施行された治療を、後方視的に検討するのみであり、患者様に新たな検査や費用の負担はありません。また、研究の対象となる患者様に対しての謝礼もありません。

上記の研究対象に該当する患者様で、ご自身の検査結果や治療結果の本研究への使用をご承諾頂けない場合には、奈良県立医科大学 放射線科までご連絡ください。

お問い合わせ先

奈良県立医科大学放射線科

岩越 真一

TEL : 0744-29-8900 (医局直通)